

2023年5月11日（木）全国私立通信制高等学校協会総会 会長挨拶

本日は、私通協総会にご出席を頂きありがとうございます。会長を拝命しております、東海大学付属望星高等学校の吾妻です。総会に先立ちご挨拶をさせて頂きます。

本日の総会の開催に際しまして、文部科学省初等中等教育局参事官付参事官補佐の松田昌幸様、全国高等学校通信制教育研究会事務局長の小宮山英明先生にご多忙の中ご臨席を賜りました。御礼申し上げます。

当協会は1971年に設立し、50年を越える団体であります。通信制高等学校を取り巻く昨今の状況は大きく変化しております。このような中で、共通する課題に対して、多くの通信制高等学校の皆様と一緒に対応する必要性から組織変更を行い、令和4年度は26校の皆様とともに活動を行いました。昨年度の活動につきまして、加盟各校の皆様にお力添えを頂きましたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。さらに、今年度は新たに7校の皆様にご加入頂き、ご一緒に活動をさせて頂きます。心より歓迎申し上げますとともに、本協会でのご尽力をお願い申し上げます。

多くの皆様とご一緒に活動をすすめておりますことによる変化も少しずつみられております。例えば、先般国会で成立した私立学校法の改正に際しましては、法案検討の段階において、文部科学省からの概要説明を頂き、私通協からの質問、回答そして具体的な要望をさせて頂きました。

また高等学校通信教育規程の一部改正等の省令改正について、私通協としての公式のパブリックコメントを提出させて頂き、さらに通信制高校の現状を直接お伝えさせて頂くなど、改正に向けたコミュニケーションをとらせて頂きました。残念ながら私立学校法改正に関しては、私たちの要望の本質的な部分については、あまり反映されず、今後の課題とするべきところではないか

と思いますが、今後とも文部科学省や所轄庁と私通協の間において、高等学校の現状と課題について、実効力のある意見交換をすすめていただきたいと思います。

さて、後ほど昨年度の事業報告があると思いますが、昨年度5回にわたり開催された理事会においては、小椋事務局長を中心に、副会長・理事の皆様により、大変活発かつ具体的な論議を展開して頂きました。また、学校運営研究会を新たな取り組みとして大阪で開催し、非加盟校を含めた多くの通信制高等学校の皆様にご参集頂き、有意義な情報交換を行わせて頂きました。

私たち通信制高等学校は、多様な生徒に対して、多様な教育活動を展開しております。教育方法は各校で様々ですが、「自分に合った方法で学びを行いたい」と願う生徒の思いに応える形で、通信制課程、特に私立通信制高校のみが生徒数を増加させております。これは、皆様の日常の教育活動への熱意とご尽力の賜物であると、敬意を表すところでございます。

その一方、通信制の教育方法のわかりづらさ、多様な学習方法への理解不足、生徒数が減少している全日制私立高校との軋轢があることも事実です。

通信制高校の教育内容について、正しく社会に発信し、社会的信頼性を高めていくことも、私たち私通協の大きな役割の1つではないかと思えます。また多様な背景を持ちながらも、学びに向かう通信制の生徒に対して、如何にしてその成長をはかることができるのか、教育の質の向上をこれからも継続的に推進し、決して「安易でショートカット的な教育内容」などと言われない取り組みをすすめていくことが肝要かと思えます。

これら教育の質的向上を継続的に行うためには、広域、狭域、株式会社立ですとか、全日制、定時制、通信制の区分なく、等しく公的助成が実現することが不可欠であり、今年度もできることから具体的に組み込んでいきたいと思えます。皆様からご意見を頂き、議論を深めていければと思えます。

さらに要望内容などの精度を高めるために、加盟各校の実態調査を実施させて頂き、現状をより具体的に訴えて参りたいと思います。皆様のご協力をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。